

アガパンサス
Agapanthus africanus
 (ネギ科)

主として花壇の植栽に用いられる耐寒性の宿根草(茎が肥大するので球根植物に分類されることもある)であるが、切り花としては、在来種その他、花色の濃い‘テンツ’が利用される。収穫後のSTS処理が必須で、STSの処理が不十分であると、蕾が開花前に激しく落下する。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
開花・老化・落弁	花序中の A: 数花～1/4の小花が開花する B: 1/4～半数の小花が開花し、数花の花被が萎れる C: 数花～1/2の小花の花被が萎縮・乾燥して落弁する D: 1/2以上の小花の花被が落弁する	小花の花被が伸長しても展開しない場合があるが(写真参照)、開花と判定する。
落蕾	A: 落蕾なし 小花が開花せずに B: 数花蕾が落下する C: 1/4の花蕾が落下する D: 1/4以上の花蕾が落下する	STSの処理量が不足すると発生がみられる
花被の退色	A: 退色なし B: やや薄くなる C: 激しく退色する D: ほとんど白色になる	花被が萎れると花色が濃くかつ赤みを帯びる。
花茎の黄変	A: 黄変なし B: 小花柄がやや黄変する C: 花茎全体が黄変する D: 花茎が激しく黄変し、小花柄が褐変する	
その他	茎の腐り、STSによる薬害など。	

2) 留意点

花茎を軽く振ってから品質のチェックを行う。

3) 開花



4) チェック事項



開花・老化・落弁

